

高校生と地域社会との関わりに係る実態調査(結果速報)

～高校時代を過ごした地域に、暮らしたり、何らかの形で関わりたいと考える高校生等は7割弱～

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社は、高校生と地域社会との関わりの実態と意識を把握するため、全国の高校生等を対象に、アンケート調査を実施しました。このほど、調査結果を取りまとめましたのでお知らせいたします。

■調査結果の要点

調査の結果、主に以下の知見が得られました。

- **高校において、学校の先生以外の地域の大人と交流・議論する機会があるのは2割に満たない**
⇒回答者の6割が「本気で接してくれる先生がいる」と回答する一方で、「本気で接してくれる地域の大人がいる」という回答は2割にとどまる。
- 「将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある」という回答は4割弱
- **高校時代を過ごした地域に、暮らしたり、何らかの形で関わりたいと考えている高校生等は7割弱**
⇒地域社会や地域の大人との関係性が深いほど、定住意向が高まる傾向。

※本調査は、新学習指導要領で目指される「社会に開かれた教育課程」における探究的な学びの場として着目される地域社会、そして、地方創生の新たな担い手としても期待の高まりがみられる高校、高校生について、両者の関わりの実態及び意識の把握、分析を目的として実施しました。高校生と地域社会との関係性のあり方について検討するための基礎資料としての役割を有しています。

調査結果については、添付の参考資料をご覧ください。

【本件に関するお問い合わせ】

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

政策研究事業本部 公共経営・地域政策部 研究員 喜多下 悠貴

〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2 オランダヒルズ森タワー

TEL:03-6733-1022 E-mail:y.kitashita_at_murc.jp (※スパムメール防止のため”@”を”_at_”に換えて表記)

【報道機関からのお問い合わせ】

コーポレート・コミュニケーション室 杉本(TEL:052-307-1106)、村田(TEL:03-6733-1005)

E-mail:info@murc.jp

【参考資料】 高校生活と地域に関するアンケート 調査結果

本調査は、新学習指導要領で目指される「社会に開かれた教育課程」における探究的な学びの場として着目される地域社会、そして、地方創生の新たな担い手としても期待の高まりがみられる高校、高校生について、両者の関わりの実態及び意識の把握、分析を目的として実施しました。高校生と地域社会との関係性のあり方について検討するための基礎資料としての役割を有しています。

■アンケート調査結果

アンケート調査名: 高校生活と地域に関するアンケート

調査対象: 国公立高校に通う現役高校生(515 サンプル)及び20歳以下の公立高校卒業者(515 サンプル)

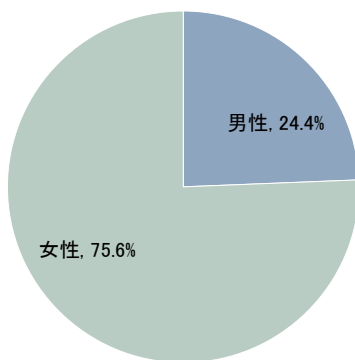
調査期間: 2018年2月2日(金)~2月4日(日)

調査方法: インターネットアンケート調査

1. 回答者の属性

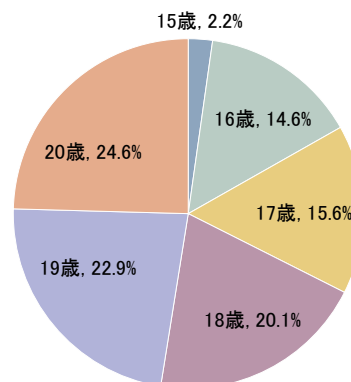
図表 1 回答者の性別

(n=1030)



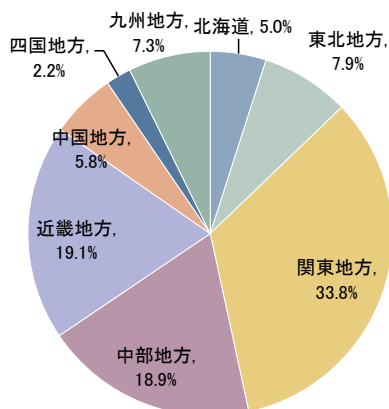
図表 2 回答者の年齢

(n=1030)



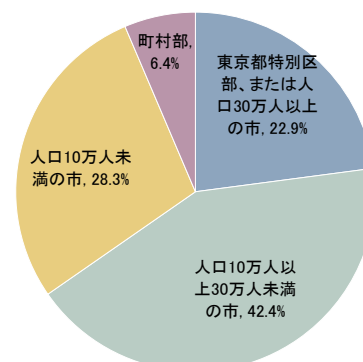
図表 3 回答者の居住地域

(n=1030)

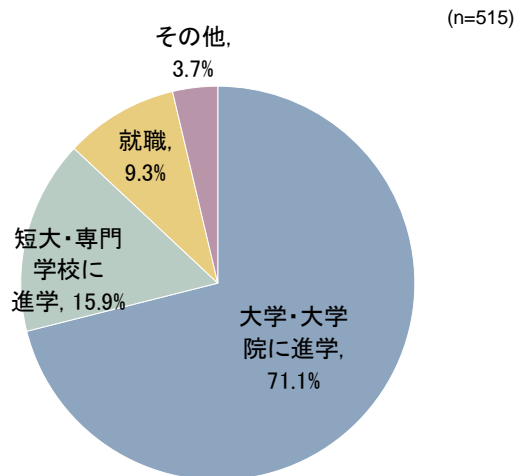


図表 4 回答者の居住地域規模

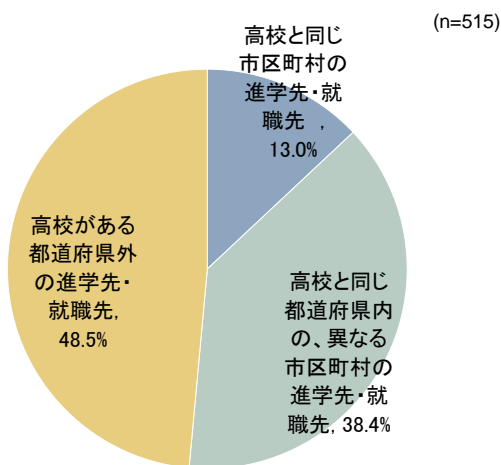
(n=1030)



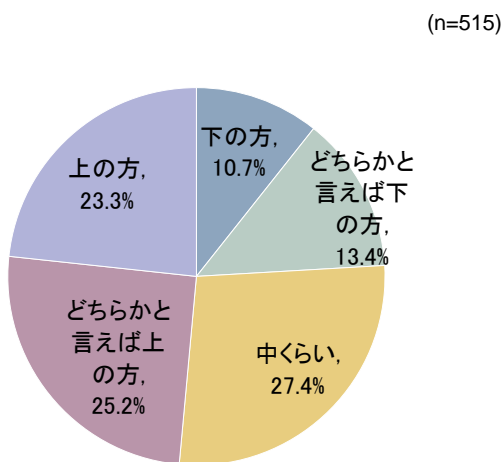
図表 5 (卒業者のみ)回答者の高卒後進路



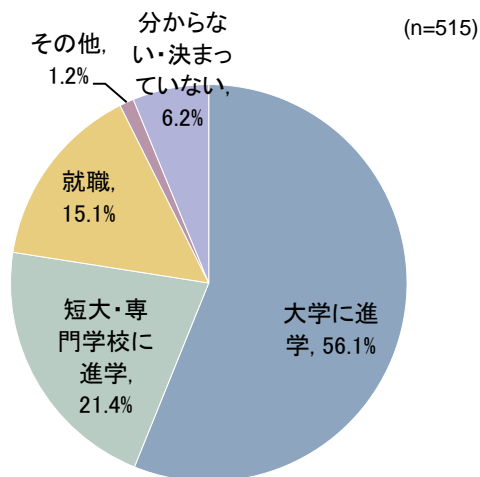
図表 6 (卒業者のみ)回答者の高卒後進路



図表 7 (高校生のみ)回答者の校内成績



図表 8 (高校生のみ)回答者の高卒後進路希望

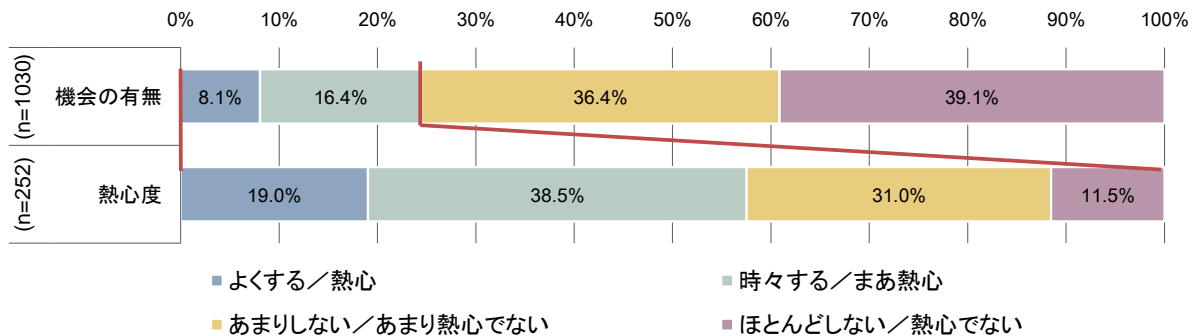


2. 地域と関わる学習活動等の経験

(1) 課題探究学習の経験

- ・本調査では、「地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える」学習活動を「課題探究学習」と定義し、その機会の有無について尋ねたところ、「よくする」が8.1%、「時々する」が16.4%であった。
- ・「課題探究学習」を「よくする」または「時々する」と答えた者の学習への熱心度を見ると、「熱心」「まあ熱心」を合わせて、約6割弱の生徒が熱心に課題探究学習に取り組んでいることが分かる。

図表 9 「課題探究学習」の機会の有無及び熱心度



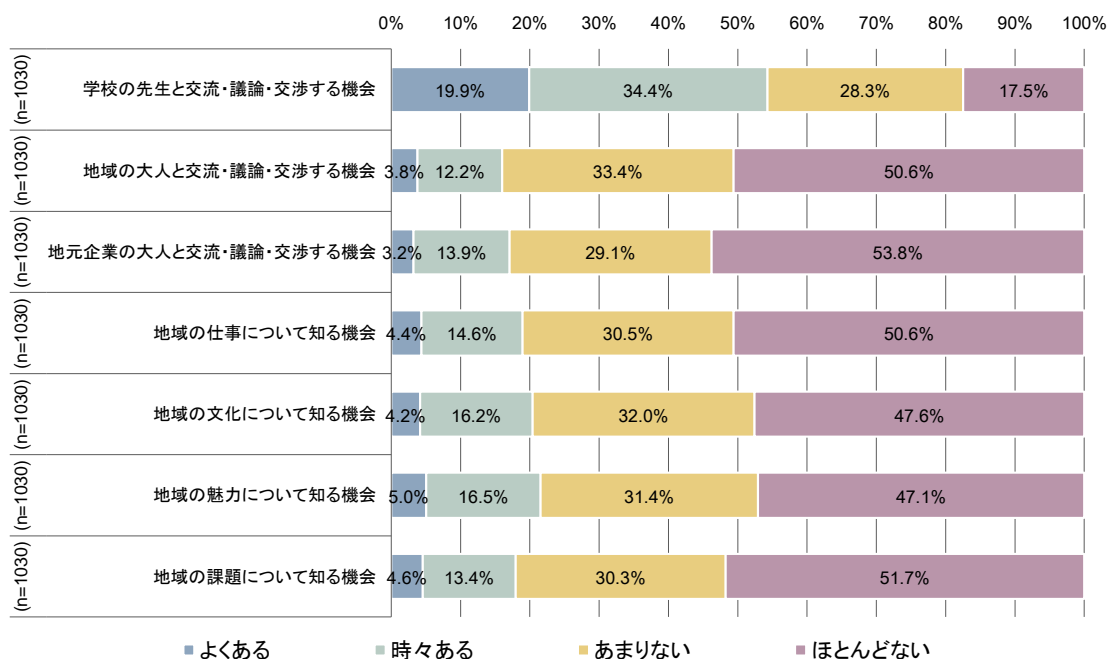
注1) 卒業者に対しては、自身の高校時代の学習活動について尋ねている。以下断りのない限り同様。

注2) 熱心度は、機会の有無について「よくする」「時々する」と回答した者のみ

(2) 地域社会や大人と関わる経験

- ・地域社会や大人と関わる機会の有無についてみると、「よくある」と「時々ある」の合計値では、「学校の先生と交流・議論・交渉する機会 (54.3%)」が最も高く、次いで「地域の魅力について知る機会 (21.6%)」、「地域の文化について知る機会 (20.4%)」となっている。

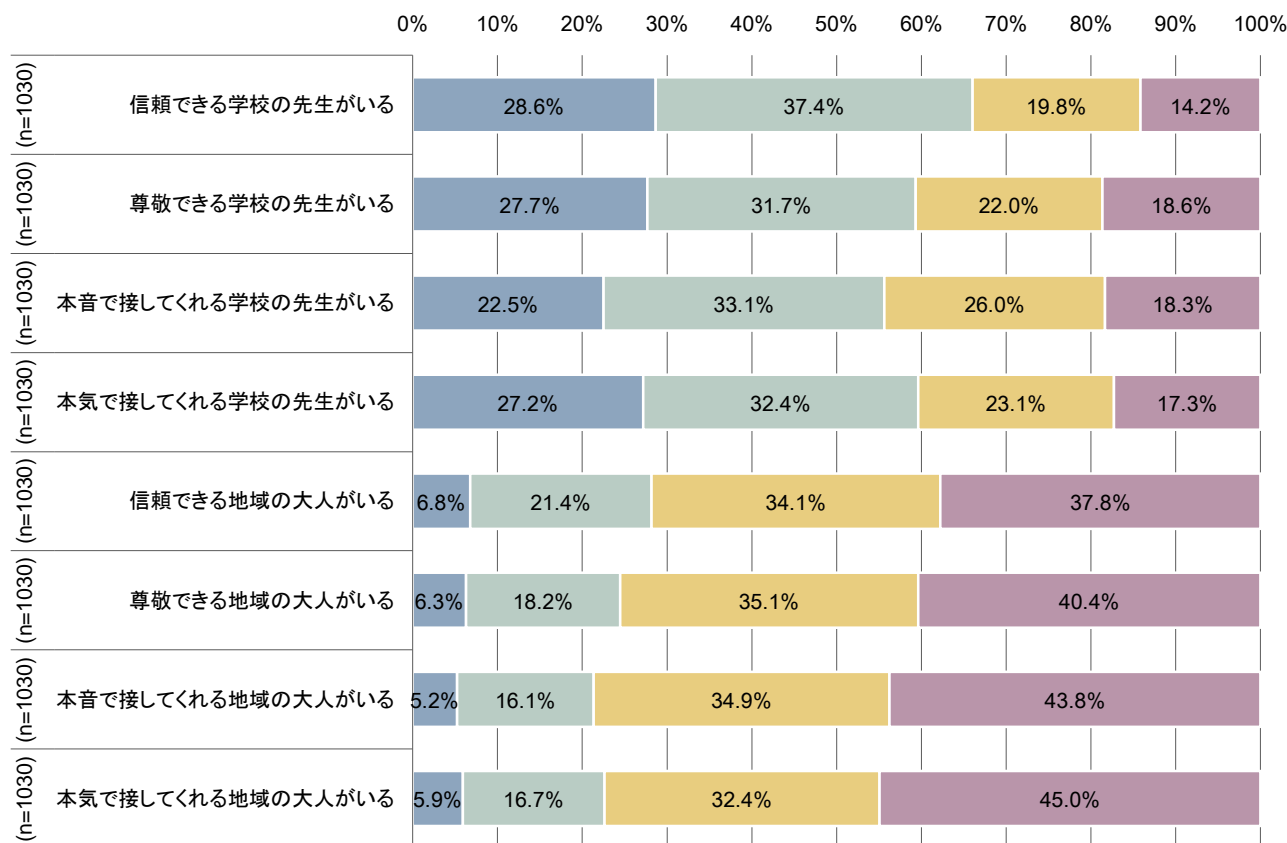
図表 10 高校での、地域社会や大人と関わる様々な機会の有無



(3) 教員や地域社会の大人との関係性

- ・教員や地域社会の大人との関係性についてみると、それぞれの項目について、教員では「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計値が6割前後であるのに対し、同様の値を地域の大人についてみると、2割から3割の間の水準となっている。

図表 11 教員や地域社会の大人との関係性



■ あてはまる ■ どちらかといえばあてはまる ■ どちらかといえばあてはまらない ■ あてはまらない

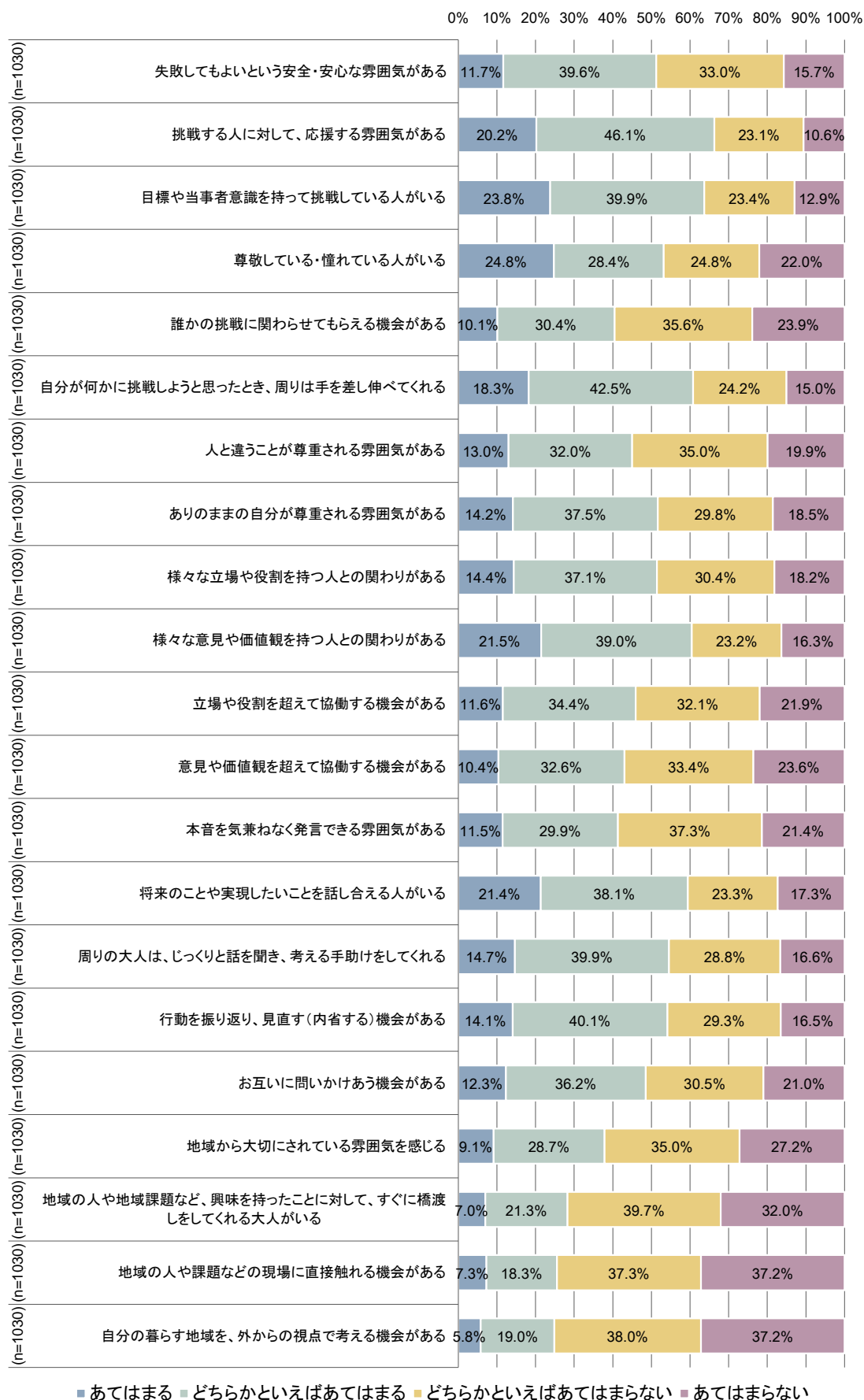
3. 高校生の学びに係る地域の学習環境

- ・本調査では、当社が一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームからの委託を受け共同で検討した、地域社会の学習環境の実態把握設問について調査を行った。
- ・「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計値に着目すると、「挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある（66.3%）」が最も高い。
- ・同様の値について、特に地域社会との関係性が強い項目についてみると、「地域から大切にされている雰囲気を感じる」は37.9%となっている。また、「自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある（24.9%）」、「地域の人や課題などの現場に直接触れる機会がある（25.5%）」、「地域の人や地域課題など、興味を持ったことに対して、すぐに橋渡しをしてくれる大人がいる（28.3%）」等は、他の項目と比較して、相対的に低い値となっている。

■アンケートでの質問項目

高校を始めとするふだんの生活において、あなたの周囲(学校や地域社会)に関する以下のことはどれだけ当てはまりますか(当てはまりましたか)。なお、ここでいう「大人」とは、あなたの家族以外の、学校生活や地域生活で接する大人のことを指します。

図表 12 高校生の学びに係る地域の学習環境

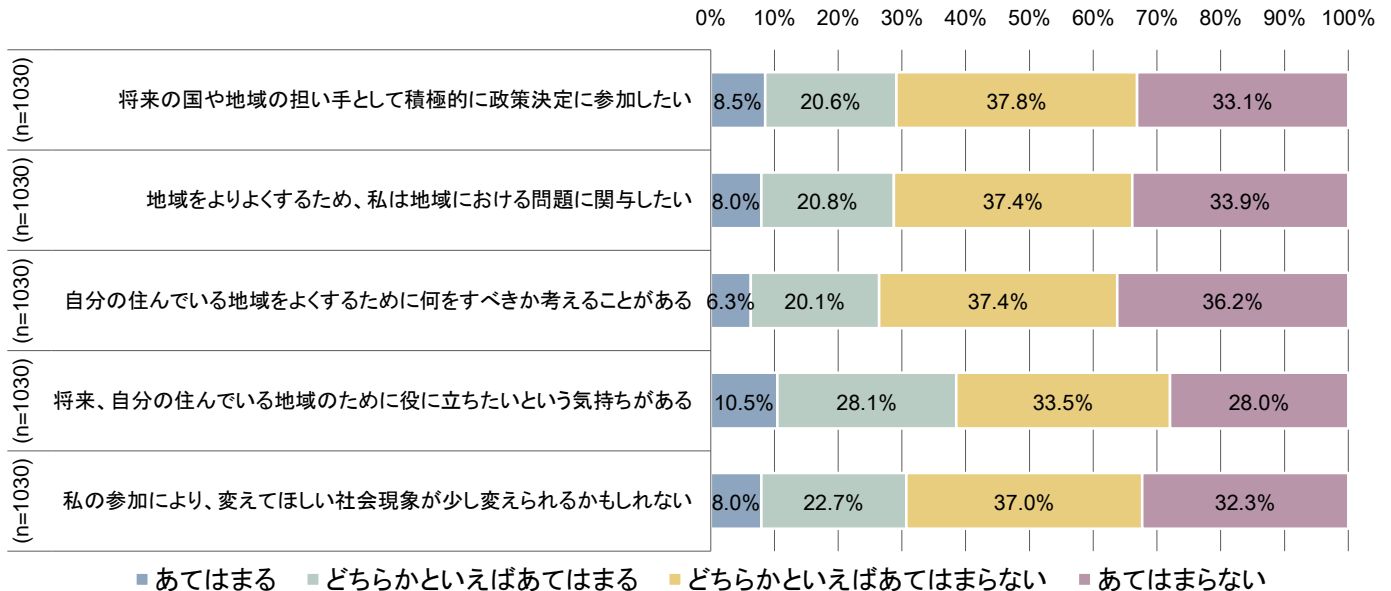


4. 地域や社会に対する意識

(1) 地域や社会への参画等に関する意識

- ・地域や社会への参画等に関する意識について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計値に着目すると、「将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある」が最も高く、38.5%となっている。同様の値についてその他の選択肢では概ね3割前後となっている。

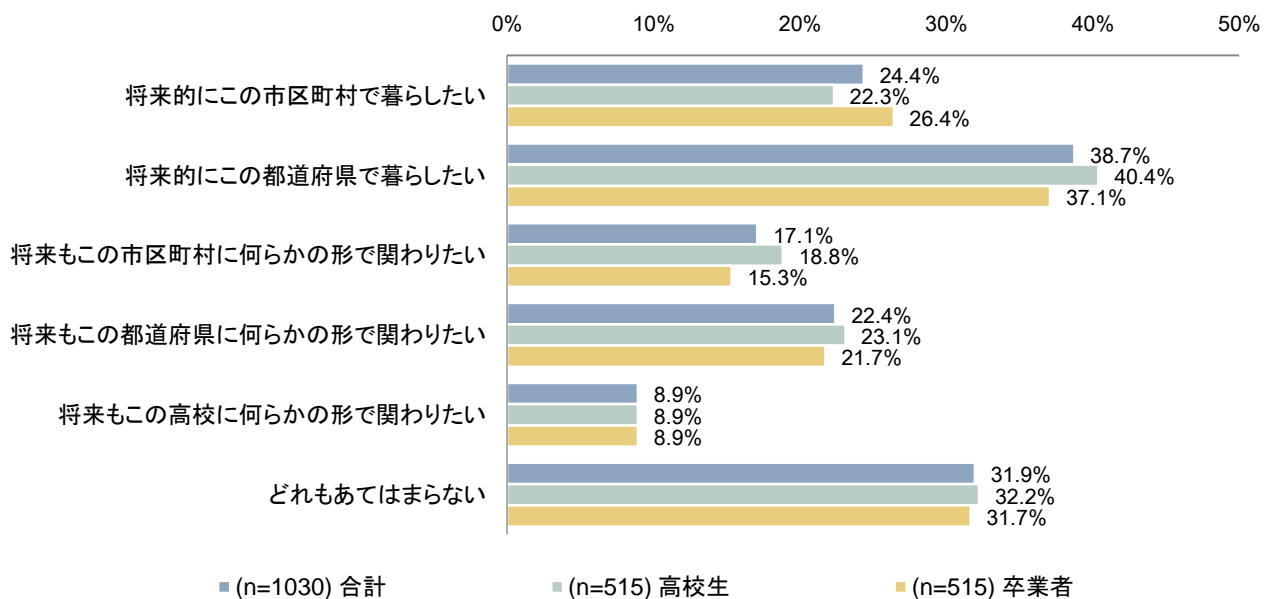
図表 13 地域や社会への参画、貢献に関する意識



(2) 地域に対する定住・関与の意向

- ・高校時代を過ごした地域について、「どれもあてはまらない」の回答割合を除いた68.1%が、将来的に、高校時代を過ごした地域に何らかの形で関わりたいと考えている。

図表 14 高校時代を過ごした地域に対する定住・関与の意向

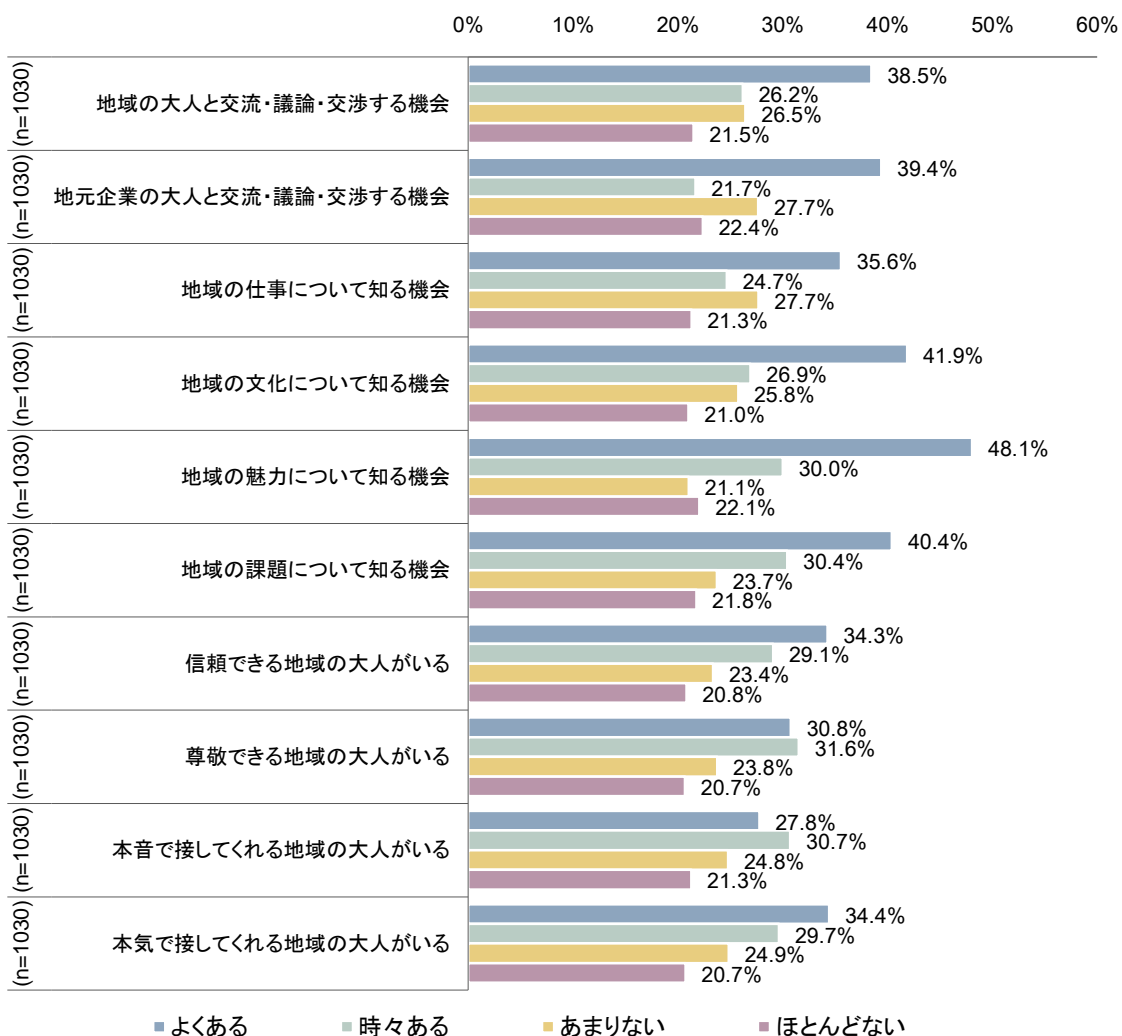


5. クロス集計による分析

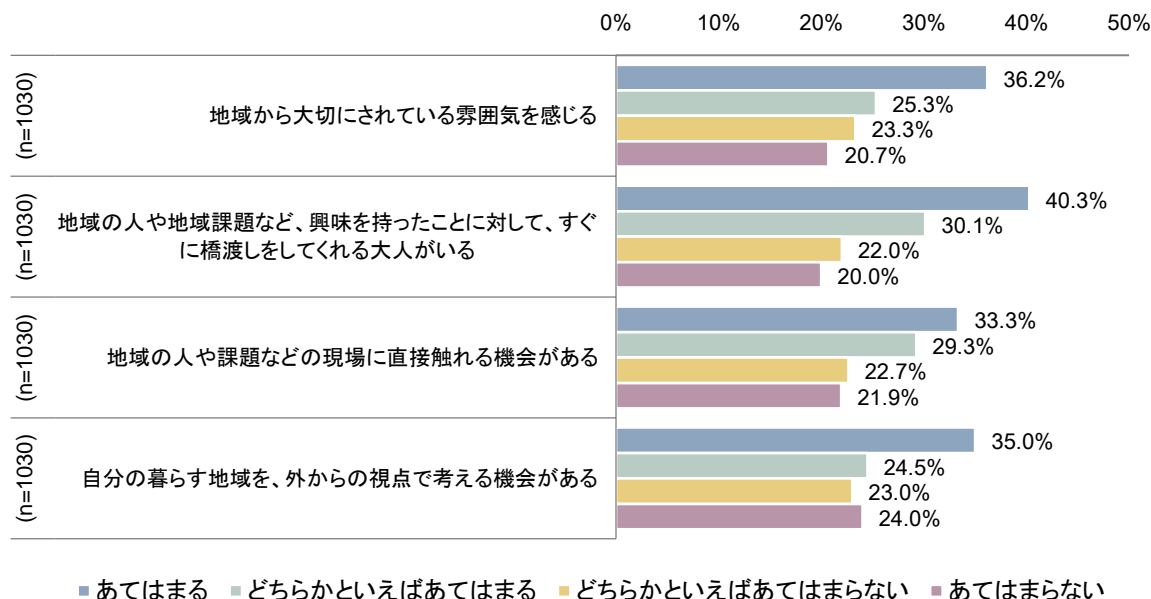
(1) 地域との関わりと、定住・関与の意向

・図表 14 でみた定住・関与意向のうち、「将来的にこの市区町村で暮らしたい」と回答した者の割合を、図表 10 「高校での、地域社会や大人と関わる様々な機会の有無」、図表 11 「教員や地域社会の大人との関係性」、また図表 12 「高校生の学びに係る地域の学習環境」のうち、特に地域社会との関連性が強い項目別にみても、ほとんどの項目について、高校時代における地域社会や地域の大人との関係性が深いほど、定住意向が高い傾向が見出される。人口減少、地域からの人口流出への対応といった観点から高校教育について考える際、地域社会や地域の大人との関係性を深めていくことが重要であることが示唆される結果となっている。

図表 15 高校での、地域社会や大人との関わりと市区町村定住意向



図表 16 地域社会の学習環境と市区町村定住意向



※上記に一例を示した指標間の関係性についてのより詳細な分析は、今後レポート・コラム等で発信予定。

— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。